

青研かわらばん

発行所	長岡鉄工業青年研究会	石田 剛士・大竹 啓之・小川 友幸	事務局	新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号
発行責任者	小西 統之	杉田 健・鳥越 太郎・萩野 浩		長岡商工会議所ビル5F
編集責任者	小林 史幸	古川 高志・前田 信也・宮下 玲子		長岡鉄工業協同組合内
編集者	矢尾 板隆	山村 誠	印刷所	長岡鉄工業青年研究会 TEL 0258-36-6982 (株)北都 三条市田島2丁目23番3号

新年度をむかえて

長岡鉄工業青年研究会
平成二十五年度会長 安藤 学



平成二十五年度、長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました。株式会社アンドウの安藤学です。一年間よろしく

お願い致します。
この歴史と伝統ある当会の会長を引き受けする事に対し、覚悟をもって努力していきます。

昨年は、台湾、ロシア、フランス、アメリカ、韓国で大統領選挙が行われ、中国でも指導部が代わり世界各国で続々とトップが交代し、地球を一周したリーダー交代の年でした。日本においても政権交代し、経済再生へ向けた政策「三本の矢」への期待が、実際の政策を先取りする形となつて、円安、株価上昇と、中長期的な経済回復に期待が持てそうな要因もございませぬ。しかし、現在我々が置かれている製造業は、産業構造の変革、経済のグローバル化、急速に変化する中で、既存の商売形態から、新しく何かを学び、どこへ向かうべきか、大きく舵を切らなければ成りませぬ。

近年、自然災害の脅威をまざまざと見せつけられました。しかし震災に打ちのめされてもお、希望を持って前へ進み続ける人、自宅もすべて失いながら、「ラッキーだった」と命があることを感謝する人。自分の家族も失いながらも、立ち止まる事無く周りを励まし復興に向けて努力し続ける人。そんな中で我々も企業の

後継者、経営幹部となつてリーダーシップを発揮するべき人です。ありのままを受け入れ、目の前の困難を乗り越えていく強い精神力と、行動力を持っていかねければなりません。当会の目的「会員相互扶助の精神に基づき、親睦、情報交換、技術の向上等 会員に必要な共同研究を行ない地域の発展に寄与する事」を踏まえて本年度、次の事業を行います。

一、人材育成事業

互いを思いやり助け合う事、「相互扶助」について学ぶ事と、全事業の行動の指針として一つ一つ事業を行っていきます。

混乱な時、先が見えない時は、一度原点に立ち返る。故きを温ねて新しきを知るといふ事から「温故知新」について学び、歴史の転換期に興つた出来事や、高い志を持って成し遂げた功績、日本人の生き方のなかに受け継がれてきた美德、日本の伝統文化の中から明日への活路を見出します。

また、製造業の構造変化が見られる今、自社の独自技術・製品の開発に力を入れる企業が增加しています。製品の付加価値を高めるといふ事は、自社製品を持っている企業だけの事ではなく、仕様制限の中で、価格と納期で応えられる体質にしていかなければ成りませぬ。課題を解決し、新しい価値を生み出す為、また、イイものを造つて行く為「デザイン」について学んでみたいと思います。デザインは単なる「意匠」、「形」、「スタイリング」として受け止められていることが多いですが、「ある目的を達成するために様々な要素を総合的に調和させる行為」ともいわれています。デザインの本来について迫るセミナーを企画したいと思ひます。

三つ「相互扶助」、「温故知新」、「デザ

イン」のテーマを組合せて人材育成事業を行っていきます。

二、渉外事業

「デザイン」は目に見える具体的な物体ということだけではなく、意識や思考の対象となる「こと(事)」も含んでいます。「もの」だけでなく「こと」のデザイン「モノゴトのデザイン」でもあるという事から、長岡技術科学大学との交流、共同研究課題を模索して行く事はもちろんの事、新たに、長岡造形大学との交流について考え、新たなものづくりのきっかけを造れたらと思っております。

また、次の世代を担う子供たちに向け、モノづくりの楽しさを体験し、興味を持ってもらいたいとの思いから継続して行ってきた、ものづくり体験教室を本年度も行います。

三、地域貢献・交流事業

地域貢献事業として、諸先輩方並びに、会員企業の御協力のもとで行われる「屑鉄集め」を本年度も実施致します。地域交流事業として、長岡まつり前夜祭に鉄工青研の神輿渡御への参加が、今年で二〇年目を迎えます。記念すべき年に青研オリジナル神輿のアップールのため、装飾を中心とした改良を施し参加いたします。また、長岡周辺地域以外の団体の皆様とも、技術向上、業界発展へ向けた情報交換を目的として、交流の場を広げていけたらと思っております。

一年間、以上の事業を中心に、当会の運営を行っていきます。これから会員の減少は避けられない状況の中、会員同士の親睦を深める事が大事です。会員皆様の積極的な参加と御協力をお願い致します。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十四年度会長
小西 統之



平成二十四年度長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせていただきました。株式会社小西鍍金の小西

統之です。昨年の今頃は永い一年になると思っていました。終わって今では充実した永い一年間を過ごすことができました。これも役員・会員の皆様のご協力の賜物だと心よりお礼申し上げます。昨年の事業を振り返ってみれば、どの事業も担当委員会の情熱と参加者の熱意に満ち溢れた素晴らしい事業だったのではないかと思います。

青研活動は、その活動を通して会員に成功体験をしてもらい自信を持ってもらうこと、またその際に築き上げた人脈・人の輪を今後に役立たせることで今後の企業経営にも役立つものだと信じています。

私も一年間会長をさせていただきました。ここでいろいろな体験をしてまいりました。この経験は、必ず自分の成長につながっているものと思います。会員の皆様におかれましても青研の事業に積極的に参加し、当会のさらなる活性化にご協力いただければと思います。

さて、今日から安藤新会長の下で平成二十五年度体制が始まります。自分も微力ではありますが新会長を支え、会員の皆様とともに青研のさらなる活躍に寄与していく所存であります。一年間ありがとうございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 小林 史幸

今年度の総務委員会は、例年通りの事業を行いました。

四月の卒業式から始まり九月の納涼会、十一月の忘年会、二月の臨時総会・新年会、そして定期総会、どの事業も大変多くの会員の皆様から参加していただき、本当にありがとうございました。

今年度は、会員の皆様への会の動きの周知を心がけてまいりました。昨年度まで行われていた委員の書記での役員会参加に加え、月例の役員会で作成した議事録をメール配信いたしました。また、鉄工青研ホームページにて、簡単な事業の報告とその写真や今後の予定などを掲載いたしました。以上のことにより、ご都合があわずにご参加いただけなかった会員の皆様にも役員会の動きや鉄工青研の活動がより良く解るようになったのではないかと思います。

年間通して、委員会に参加する委員の皆様をなるべく待たせないようにと月例の役員会は、なるべく時間内に終わらせることを意識して議長をしてまいりました。しかし月によっては、お待たせしてしまっただけもあり、その点は申し訳なく思っております。次年度、議事進行がうまくできれば、出席者が増えていくのではないかと思います。

最後に、総務委員の皆様には、多分にご迷惑をお掛けしたかも知れませんが、お蔭様で無事一年間活動することができ

ました。皆様、本当にありがとうございました。

◆卒業式

平成二十四年

四月七日に、かも川別館にて卒業式が厳かに行われ、今回八名の先輩が卒業されました。

卒業生の皆様からは、「自分にとって青研とはどういうものであったか」という青研への熱い思い込めたお言葉を頂き、改めて鉄工青研の良さを認識いたしました。懇親会では、卒業生との思い出話やそれぞれの交流に花が咲き、大変盛り上がりしました。恒例の胴上げも無事に終了し、感謝の気持ちで卒業生を送り出すことができました。



参加者 六十一名 (小林 史幸)

◆納涼会

九月十五日に沓勢長岡店にて納涼会を行いました。アオーレ長岡にて行われたものづくり体験教室の打ち上げも兼ねていましたので、多数の方に参加していただき、大変盛り上がりしました。今後の活力源になる有意義な時間が過ごせたかと思えます。

参加者 三十六名

(古川 高志・石田 剛士)

◆忘年会

十一月三十日に魚屋や本店にて忘年会を行いました。一年の締めくくりとして、多数の方々から参加していただきまして、多いに盛り上がりました。会員相互の親睦を深めることが出来て、楽しいひと時を過ごせました。

参加者 三十九名

(石田 剛士・鳥越 太郎・山村 誠)

◆臨時総会・新年会

平成二十五年二月八日グランドホテルにて、臨時総会・新年会を行いました。

臨時総会では、次年度会長、副会長及び各役員の出選が行われ、無事承認されました。

今回、役員の大任・復任についての話もあり、有意義な総会でした。新年会は中越鋳物青年研究会と合同で行い多くの来賓、歴代会長にもご参加いただきました。本締めの際には、両会の歴代会長のよる本締めしていただき、楽しい雰囲気でも進めて行くことができました。

参加者 七十三名 (小川 友幸)



研修委員会

委員長 大宮 文範

◆第四十一回定期総会

平成二十五年四月十三日 かも川別館にて行います。

本年度小西会長より、研修委員会に課せられた課題は「不況の中でも利益を出す仕組みを学ぶ」という内容でした。昨今の製造業の取り巻く環境は厳しいものがありますが、その中でも利益を出している企業は存在します。

それらの企業は、何らかのアクションをしているからこそ利益を出し続けているはずで。

研修委員会では、「これをすれば必ず利益をだせる」とのような事ではなく、自己の成長のために、参加者が能動的に自ら3C（顧客・競合・自社）を考えて頂くような設えをさせて頂きました。

初めに、社内の生産工程における流れを良くし無駄を省くための「生産管理」について学びました。激しく変化する外部環境や顧客ニーズに対して、柔軟かつ素早く対応するために社内の無駄を省かなければならない事。そして、我々自身の思考の整理方法を学びました。秋の研修旅行では、他地域の同世代の経営者達がどのような気概で経済活動を行っているかを肌で感じて頂けるように東京都八王子市で活動されている団体を訪問しました。そこでは多くの若い経営者が「自他共栄」の理念の元、夜遅くまで様々な事を議論し、近隣の大学で講義を行うなど活発に活動されていました。それらを見ることで自分た

ちの置かれている立ち位置を知ることが出来ました。

そして、円滑化法終了後の動向について、二月に勉強をいたしました。企業は赤字倒産とあるように非常に脆い部分があり、だからこそ我々は、会社の将来像を明確に示すように舵取りを行うかを模索していかなければならない事を学びました。

最後になりましたが、一年間委員長をさせて頂き大変に勉強になった反面、委員会運営で多くの方にご迷惑をお掛け致しました。この経験を生かし、これから青研活動を通して少しずつ皆様にご恩をお返しできればと考えております。

年間の事業を完遂できましたのも、小西会長をはじめ、鉄工青研の会員の皆様、何より委員会の皆様のおかげだと大変感謝しております。一年間ありがとうございました。

◆「講演会」

平成二十四年六月二十九日、「まちなかキャンパス長岡」にて講演会を開催致しました。

講師に株式会社インテリジェントシステムズ常務取締役、長澤智様を御迎えし「生産管理の基礎」について御講義頂きました。

講義の序盤はマインドマップを使った「ものの考え方」・「思考の整理」について御説明頂き、その後「生産管理の歴史や種類」、「中小企業に合致した生産管理方法」、「ピボットテーブルによる分析」など具体的な内容に入り、生産管理の重要性を学ぶ事ができました。

懇親会では講師様にも御出席頂き、参

加した青研会員からは日頃使っている生産管理をデータ分析する方法について質問する場面などがみられました。最後に皆様から御協力頂きまして、事業が円滑に進みました事に深く感謝申し上げます。有難うございました。

参加者 講演会 二十四名
懇親会 二十一名

(高木 繁樹)

◆「研修旅行」

本年度、長岡鉄工業青年研究会の研修旅行は、会長の所信表明にありました「不景気においても、利益を出している会社がある。その会社を勉強し自社へ還元すること」を目的とした東京都八王子市にあります「HFA」（八王子フューチャーアংশエーション）様との交流及び加盟企業の見学を実施致しました。

工場見学や交流会の中で参加された皆様が5S活動などの実践的な話だけではなく、HFA様の理念である、「自他共栄」（相互を信頼し助け合う心を育て、結果として共に大きく成長することができること）に基づいた行動や考え方に接し、積極的に意見交換している姿を多く見受け



見受け、冒頭では、現在の市況や適用を受けている会社の状況、またその後の立ち直りや支援について具体的な事例をまじえながらご説明頂きました。

◆セミナー

平成二十五年二月二十二日、「アオーレ長岡」にて講演会を開催致しました。講師にコマスマーケティング株式会社代表取締役 今井進太郎様をお迎えし「金融円滑化法終了後の対策」についてご講演頂きました。

(七里 大樹)

さらに、金融機関の見解から、今後どのような危機が迫ってくる可能性があるのか、またその危機を回避するための注意点・見極め方などもお話し頂きました。



ご講演の中で「原価計算」のお話があり、そのあとの懇親会で原価の概念

や計算をどのようにしているかなど、参加者同士で話題になったことがとても印象的でした。参加者の中でも意見交換ができ、他社の手法を開けることで、とても有意義な時間が過ごせたのではないかと感じております。

最後になりますが、皆様のご協力により事業が円滑に進みましたことに、心より感謝申し上げます。

参加者 講演会 十六名
懇親会 十六名
(池田 一雄)

実行委員会

委員長 猪爪 眞貴

実行は、計画があるから実行できる。念には念を入れた計画であっても、人が行うもの、動くものは、トラブルが付き、一〇〇パーセントの計画はできない。

しかし、どのような場面でも、対応できる柔軟性を、この会の会員は全員が持っていて、相互で助けて頂いた、そんな一年であったと思ひ、感謝しております。

追い出しコンペでは、プレー時間が二時間以上遅延し、表彰式開始を遅らせるトラブルがあり、リフレッシュイベントでは、委員長でありながら、料理をした経験がなく、加えて、当日体調を崩してしまいました。誰一人して責めることはせず、むしろトラブルと思わせない柔軟なカバート、期待以上に協力をして頂きました。

この一年間、実行委員長を務めて行く中で、次の言葉を三度、三名の方から別々の場所で頂きました。

青研のリーダーなんて、所詮青研なんだから、失敗したって構わない。むしろ、失敗した方がいい。ただし、一生懸命やったことに対して、誰も失敗なんて思わないし、すべてが成功になる。この言葉の意味する所、切に感じさせて頂きました。今会の役員を、自身最後のチャンスの年に経験できたこと、そして頼りないながらも、一年間ついてきて頂いた委員の九名、そして委員会の枠を超えて協力していただいた全会員の皆様に深く感謝致します。

一年間ありがとうございました。

◆卒業生追い出しコンペ

平成二十四年

四月二十八日(土) ヨネックスカントリー リークラブにて卒業生追い出しコンペを行いました。



今回は、コンペ四名・表彰式より参加二名の計六名の卒業生に参加していただきました。

当日は雲一つない晴天での開催となり、参加者全員で盛り上がる事ができ、卒業生の方々を盛大に送り出すことが出来たと思ひます。

参加者 ゴルフ 十八名
表彰式 二十七名
優勝者 川口 秀和様
(安田 英生)



◆リフレッシュイベント

ファミリーバーベキュー

平成二十四年、八月十九日(日) 新潟県立こども自然王国にて行いました。

今年のリフレッシュイベントは、会員の家族間の親睦をテーマとし、会員家族二十組の家族から参加して頂き、楽しい時間と、日頃の労を癒して頂けたと思っております。

当日は、真夏らしい猛暑の中にも関わらず、参加、協力して頂いた方々に感謝いたします。

参加者 大人 三十四名
子供 二十三名
計 五十七名
(野本 新太郎)



た。これもひとえに、屑鉄集めに対するご理解、ご協力を賜った協力企業及び、回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。

事故・怪我等なく、無事、作業を完了できました。皆様、誠にありがとうございました。

(真島 洋紀)

◆秋季ゴルフコンペ

平成二十四年、十月十三日(土) 長岡カントリークラブにて秋季ゴルフコンペを行いました。

当日の午前中は雨でしたが、午後からは晴れとなり、楽しくプレー出来たと思います。

OBの方も六名参加され、交流を深めることができました。

来年からも、今事業が継続されることを期待いたします。

参加者 ゴルフ 二十二名
表彰式 二十五名
優勝者 皆川 政男君
(福田 敏行)



◆屑鉄集め

平成二十四年九月四日(火)、回収作業参加者二十五名、屑鉄提供協力企業三十五社にて行いました。未だ芳しくない景気の中にも拘らず、七十万円余を集めることが出来まし



◆児童、福祉施設贈呈式

平成二十四年、十二月二十一日(金) 例年通り、柿が丘学園様、もみの木工房様、双葉寮様に、寄付、贈呈式を行いました。



今年、六名にて訪問し、三施設とも、感謝の御言葉を頂きました。様々なハンデを抱えながら、果敢にも挑戦している方を見学し、逆にこちらが元気を頂き、勉強する点も多々ありました。

屑鉄集め同様、本事業も継続することを目指します。

(河田 一優)

まつり委員会

委員長 永井 邦 幸

平成二十四年八月一日(水)、例年通り長岡まつり前夜祭神輿渡御に参加して参りました。

本年度は一般参加者の増強を一つのテーマに据え活動を致しました。

結果としては、当日の飛び込み参加を含め総勢一〇人以上での渡御となり、ここ数年の参加者に比べ若干多い程度の参加者となりました。

しかしながら、如何にすれば一般の参加者が来やすい環境を作れるのか、どうすれば周りが皆会員なのではないかというアウエイ感を取り去れるのかというような、来て頂いた方への配慮に着目し活動したことは、結果として全員一丸となつての渡御を事故なく成功する事に繋がっていたのではないかと感じました。

こういった配慮を続けていくことは次年度以降、



新たに増えてくれる人、また出てほしいと思える人を増やしていくことに必ず繋がっていきまふし、同一の意識を共有し事故なく渡御を終えるためには必要なことであると思ひます。

一般参加者を多く募り青研の神輿を長く継続するためには、参加費や集合時間等のシステム面の改善や、神輿自体の軽量化等のハード面での改善を考慮する必要がありますが、それ以上に、参加者への配慮や気遣いといったソフト面での改善が、より鉄工青研の神輿渡御を継続することに繋がると考え、次年度以降も継続して頂けることを希望致します。

最後になりますが、御参加頂きました全員の皆様、多大なる御協賛、御祝儀、御助力を賜りましたOBはじめ関係各所の皆様の多くのお力添えの結果、無事鉄工青研神輿渡御を終えることができました事、心より感謝申し上げます。有難う御座いました。

ものづくり委員会

委員長 山崎 宣 明

今年のもものづくり委員会では四つの事業を行いました。ハイブ長岡正面玄関用プラント製作では今年本体を十台製作し、次年度に装飾加工を行います。ステンレス製、スケールが大きく重量物という事もあり加工が大変でしたが委員の皆様のご協力により製作できました。



今年で七年続けている「ものづくり体験教室」では、アオーレ長岡オープンギャラリーということもあり、アオーレ長岡 ナカドマで開催いたしました。ものづくり体験をしている時の子供達の真剣な目、出来上がった時の笑顔、そんな光景を見てみると、改めて「ものづくり」の醍醐味を実感しました。実績のない会場ということで設営、集客に関して不安などありましたが、委員の皆様から大変なるご協力を頂き素晴らしい事業になったと私は考えております。

若手研究者交流会では、長岡技術科学大学の三名の先生方から、風力発電、切削アプグレドドリサイクルによる熱電変換素子と、最先端の技術を取り入れた新エネルギー開発のご講話を頂きました。また、研究室も見学させて頂き貴重な時間となりました。

長岡越後匠展では、年間事業計画にはありませんでしたが、出展依頼が来た為、委員の皆様からご協力を頂き、二日間出展しました。会場はアオーレ長岡 アリーナで他団体なども沢山出展しており、大変にぎやかな事業でした。青研では做い彫刻機、クギの知恵の輪を行い、想定以上の集客、小さい子供からお年寄りまで幅広い年齢の方々から体験していただき、ものづくり体験教室とは異なった楽しさがありました。

一年間、青研会員の皆様、ものづくり委員の皆様には大変なるご協力を頂き、大変感謝しております。

◆ものづくり体験教室

平成二十四年九月十五日にものづくり体験教室を行いました。当日は天候にも

恵まれ大きなトラブルや怪我もなく子供一〇三名、大人八十四名の計一八七名と大勢の人たちに来場して頂きました。子供たちにこの体験教室を通して、ものづくりの素晴らしさ、楽しさを伝えることができたのではないかと思います。

今回は初めてアオーレのナカドマでの開催ということもあり多少段取り等に苦勞しましたが無事に終えることができました。こうして成功できたのも各委員会の方々の事前準備と当日のスムーズな対応があったからこそだと思います。本当にありがとうございました。

(渡辺 潤一郎)



◆若手研究者交流会

二月一日に若手研究者交流会を行いました。今回の若手研究者交流会は品田様、藤田様の御協力のもと、長岡技術科学大学へ訪問し、宮下准教授、武田准教授、南口准教授より日頃の研究内容のご講和を頂きました。三名の先生方ともに最先端の技術を取り入れ、エネルギー開発をご研究されておられ、日々進化した研究をされていることを実感いたしました。また研究室も見学させて頂くことができ、より身近に研究の内容をお聞きすることが出来ました。

(山本 友紀)



平成25年度 長岡鉄工業青年研究会組織図

直前会長 小西 統之

会長 安藤 学

副会長 難波 博繁
堀 淳
永井 邦幸

総務委員会 9名 (担当副会長 堀 淳)

委員長 堀 淳
副委員長 宮下 玲
委員 市川 光・小川 友幸・酒井 孝幸
佐藤 大友 樹 関 根 良 輔 中 條 孝 秀 幸 樹
山 本 友 紀

研修委員会 9名 (担当副会長 難波 博繁)

委員長 高木 繁 樹
副委員長 七里 大 樹
委員 阿部 修平・小林 史幸・反町 惣夫
田原 裕巳・野本 新太郎・古川 高
矢尾板 隆

実行委員会 9名

委員長 毛利 聡 一
副委員長 石田 剛 士
委員 大竹 啓之・小笠原 昭範・河田 一優
小真 沼島 洋 啓 富川 和 則 福 田 敏 行

渉外委員会 9名

委員長 山崎 宣 明
副委員長 加藤 芳 夫
委員 池内 克 徳・池田 一雄・鳥越 太
山 井 宏 明・中津山 隆 博 萩 野 郎 浩
山口 良 和

まつり委員会 9名 (担当副会長 永井 邦幸)

委員長 松田 勇 介
副委員長 皆川 政 男
委員 加納 孝 樹・小林 宏・橋本 祐一
矢尾板 大 樹・矢尾板 政 樹・山 村 祐 誠
渡 辺 潤 一郎

会計 大宮 丈 範

会計監査 猪 爪 眞 貴・前 田 信 也



新入会員の紹介

平成24年度4月以降入会

酒井 孝幸
金徳シヤリング株式会社
〒九五〇一五五
三条市福島新田一五九一番地二
FAXTEL 〇二五六一四五一八〇
昭和五十三年五月十五日生

萩野 浩
有限会社萩野鉄工所
〒九四〇一〇一六
長岡市宝二丁目一六番地一九
FAXTEL 二四一七五〇九
昭和五十三年七月六日生

中津山 隆博
株式会社中津山熱処理
〒九四〇一六四
長岡市南陽一丁目一〇八九番地一〇
FAXTEL 二二一〇八五一
昭和五十七年九月十九日生

鳥越 太郎
西川工具株式会社
〒九四〇二九
長岡市東蔵王二丁目六番一号
FAXTEL 二四一五七二
昭和五十二年十二月十九日生

祝 ご卒業

久保 雅宏
(有)久保鉄工所

佐藤 康一
(株)アサヒプレート

佐藤 大輔
(株)東京ロストワックス工業

真保 哲行
(株)シンワ

杉田 健
(有)スギタ

多田 雅彦
(株)近藤鉄工所

田中 智也
(有)エヌ・テック

町永 隆弘
(有)町永木型製作所

松崎 孝彦
新潟竹内ハガネ(株)

安田 英生
金徳シヤリング(株)
(以上十名)